

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2014年2月26日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修 3年次

氏名：佐々木 亮

派遣先大学名(国)：蘭州大学(中国・甘肅省)

在籍身分：交換留学生

派遣期間：11 か月

渡航年月日：2013年2月24日

帰国年月日：2014年1月24日



蘭州大学の図書館

○派遣先大学における授業等の履修状況

講義名	履修期間	講義時間(週)	取得単位数
初級汉语(Ⅲ)	2013年2月25日～2013年7月15日	6時間半	8
初級口語(Ⅲ)	2013年2月25日～2013年7月15日	3時間半	6
初級聴力(Ⅲ)	2013年2月25日～2013年7月15日	3時間半	4
中級汉语(Ⅱ)	2013年9月1日～2014年1月11日	5時間	6
中級口語(Ⅱ)	2013年9月1日～2014年1月11日	5時間	6
中級聴力(Ⅱ)	2013年9月1日～2014年1月11日	3時間半	4
中級読読(Ⅱ)	2013年9月1日～2014年1月11日	3時間半	4

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

蘭州大学では交換留学生は国際文化交流学院に所属し、初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、中級Ⅰ・Ⅱ、上級の6つのクラスから自分の中国語レベルに合わせて自由にクラスを選択することができる。それぞれのクラスの授業科目は汉语(漢語)、口語(口語)、聴力(リスニング)、読読(読読)の4つから構成されている。汉语は比較的長めの長文を読みながら、単語や文法を学習する授業で、口語は会話文の読解を通じて主に会話でよく使われる表現を学習する授業である。また、読読は700字ほどの新聞やエッセイを読み、設問に回答するという授業である(読読は中級クラス以上で履修)。1クラス15～20人ほどの少人数で授業が行われるため毎日何度も発言することが求められる。特に中級クラスになると教

クラスメートと蘭州観光

科書の内容を覚え、学生の前で要約をしたり、授業内容に関連して現状等を議論し合うといった高度な語学力を必要とする場面もある。そのためどの授業もただ先生の話聞いて理解するだけではなく、自分から積極的に発言することが重要視される。私のクラスでは学生たちは皆中国語の習得に強い意欲を示していたので、活発で大変質の高い授業を受けることができたのではないかと感じている。



また、私は中国語の習得のほかに、農村に赴き農民の生活状況について調査をすることや世界共通の中国語試験である HSK5 級の取得を目標に掲げ、いずれも実現させることができた。今後本学では農村訪問で得た情報をもとに、中国内陸部の農村経済についてより深く研究していきたいと考えている。さらに HSK6 級や中国語検定の取得を目指して語学力の向上にも力を入れ、将来は日本とアジアを結ぶ架け橋のような存在として世界で活躍していきたいと考えている。

○生活面について

蘭州大学には世界中からたくさんの留学生が集まっている。特に中央アジアや韓国からの留学生が多い。また留学生たちは皆明るい性格で気さくに話しかけてくるため、コミュニケーションを取ることが比較的容易で交友関係も築きやすいように感じた。さらに日本人留学生は少なく、私たち日本人に興味を持つ学生や市民も大変多いため、幅広い世代の方々と交流することができた。

留学生はほとんどが寮で生活をする。寮は2か所にあり、自分で好きな寮を自由に選ぶことができるが、原則として2人部屋になる。私が生活していた寮は風呂



やシャワー、トイレが部屋に完備されているため、比較的便利で気持ち良く過ごすことができる。しかし、部屋にキッチンはなく、お湯を使える時間が夜間の3時間のみであるため、慣れるまで時間がかかり、少し苦痛に感じることもあった。私はカザフスタンやキルギスからの留

中国人留学生と

福祉施設入所者たちと

学生と一緒に生活していたが、生活習慣に大きな違いはなかったため、遠慮することなく自由に過ごすことができた。

食事の際は、授業の前後に食堂へ行き、留学生や中国人学生とよく食事をした。食堂の料理は比較的安く種類や量も多いため、飽きることなく楽しむことができた。休日など時間のある時は、大学の外に出向き、イスラム料理店や中国料理店でたくさんの学生と食事をする機会も多かった。宗教的に豚肉やお酒を口にすることができない学生が多いため、食事に行く際は気を使うことがあるが、貴重な交流の場としてその国の文化や歴史、現状などさまざまな話を聞くことができた。

休日は友人たちと蘭州市内を散策したり、スポーツにも取り組んだ。また定期的にボランティア活動にも参加し、子供たちや市民との交流も行った。このように私はとにかく積極的に人々との関わりを持つことを重視した。



○その他留学全般にわたる感想

私は留学生生活を始めた当時中国語はほとんど話せない状態で、周りの留学生となかなか交流できず悩んでいた。さらに私のクラスメートは皆半年から1年留学経験がある学生ですでに中国語で意思疎通できるレベルであったため、自分との差を痛感していた。しかし、最初の数か月間はクラスメートの中国語レベルに追い付くことを目標に一生懸命勉強した結果、先生や学生の話す中国語に少しずつ慣れ、前期の授業が終わるころには学生に中国語のレベルの高さを褒められるほど上達していた。これは日本人がほとんど



どいない環境の中でできることであるため、蘭州大学は中国語を習得する場として最適であると感じた。また、大学には文化祭や運動会、旅行など留学生や中国人学生を巻き込んだイベントが複数あり、他国の学生と知り合うチャンスは比較的多い。私は

留学生会のメンバーと（国際文化祭にて）

四川省旅行

留学生会に所属し、留学生の代表の一人として主に文化祭の企画や運営に携わった。中国で議論し相談し合っイベントの成功に結び付けるまでは苦難の連続だったが、学生たちの中心に立って物事を実行できたという喜びは相当なものであった。このように蘭州大学には自ら積極的に挑戦し、今までにしたことのない経験ができる



場が整っている。私はたくさんの人と交流したことで、コミュニケーション能力や行動力を養うことができた。今では留学経験が人生で一番かけがえのない財産となっている。今後も留学培った知識や経験を最大限に活かし、自分自身を更に成長させたいと考えている。

最後に、有意義な留学生活を送ることができたのは、蘭州大学、秋田大学の方々、そして家族にたくさんの支援をいただいたおかげである。私のために親身になって応じてくれたすべての方々に感謝申し上げたい。

農村で知り合った家族

